

平成 30 年度 第 2 回 日野町校区審議会議事録

項 目	内 容 記 録
1. 期 日	平成 31 年 2 月 14 日（木）13:30 開会
2. 場 所	日野町役場 大会議室
3. 開会（閉会）	13:30～15:55
4. 出席委員等氏名	委員：本名俊正、山本武史、神庭賢一、下村敏彦、其山守美、後藤宣明、伊田忠人、緒形明朗、宮脇慎治、水谷美鈴、小川明男、高田美樹、長谷川弘信、内藤佳代子、遠藤公俊 事務局：砂流誠吾、遠藤律子
5. 会長あいさつ 会 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の校区審議会の中であったように、日野町は今までにない人口減の波の影響を受けている。また、今の日本は、外国人が入ってきて幅広い交流がある。東京に行っても外国人ばかりで、周りに日本人がいない状況であり、大きなグローバル化と人口減という二つの波の中で、日野町を守り、育て、発展させることが課題。少ない中で知識を吸収するだけでなく、児童生徒がコミュニケーション力をつけ、自分で考え判断し、解決していく力を今まで以上に持つことが必要。日本全体でも 15 歳から 65 歳までの労働人口が半分くらいに減ってきて、高齢者は今より長く働き、青年層は今の倍くらい働く必要がでてくる。</li> <li>・海外の学生に比べて日本の学生は発言が少ないのが気になる。それではグローバル化の中で主導権をとるのは難しい。</li> <li>・日野町の子どもに、町内に残っても町外に行っても十分活躍する力をつけてやりたい。</li> </ul>
6. 報 告 会 長 課 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(1) 第 1 回審議会の概要について事務局からお願いします。</li> <li>・資料 1 H30. 11. 19 日野町校区審議会議事録 校区審議会についての説明後、会長と副会長を選出。 日野町教育長から校区審議会会長に諮問を行う。 日野町の概要、教育大綱、教育方針などについて説明。 意見交換の中で、審議会の期間について事務局よりできるだけ来年度末までに答申をいただきたいと伝え、会長からこの 1 年半のうち答申を出したいとの言葉があった。 教育の現状については、学校長から説明、場合によっては学校現場の見学等も今後していきたい。他町との合併という話もあったが、現状日野町に学校を残すということを第一に考</li> </ul>

<p>会長</p> <p>課長</p>	<p>えて教育のあり方を検討。教育委員会に提出された答申については、教育委員会、総合教育会議で議論し日野町の方針として議会に提案していく。</p> <p>各学校長からの報告後、人間関係の固定化というキーワードが出て、固定化の課題についていくつか意見があった。「今後の方向性について、PTA でまとめた意見を審議会に出してほしい。」「小規模校の良さを生かした学校経営をしてほしい。」「新たな学校教育の在り方を考える方向も良いのでは。」「単なる人数合わせではいけない。」「統合しても子どもの人数は減っていくので少人数で何ができるのかを考えていくことが大切。」「現在学校は3校だが、教育投資をしてもらうにはひとつにした方が良いのでは。」「地域との関わりとして、地域の核となる学校のあり方、地域の意見を無視してはいけない。」「地域の方のところに子どもたちが来ることで、相互作用によって地域も元気になる。」「義務教育学校の事例や資料を集めたり、視察をしたりして議論をしていきたい。」というような意見があった。</p> <p>現状の学校形態や児童生徒数の準備をしてほしいということだったので今回資料を準備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の会では、しっかりとした意見を持っている委員さんだという印象が強かったので、多面的な検討ができると思う。</li> <li>・(2) 義務教育学校視察について       <ul style="list-style-type: none"> <li>1/17 鳥取市立湖南学園 訪問 11名参加</li> <li>事務局から説明をお願いします。</li> </ul> </li> <li>・資料2 日野町教育委員会 学校訪問       <ul style="list-style-type: none"> <li>視察に先立ち日野町から17項目の質問をし、細かな回答をいただいた。</li> <li>質問1 小中一貫教育ほを目標した大きな要因・目標はどのようなことか</li> <li>質問2 義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校との違いは何か</li> <li>質問3 施設一体型と分離型のメリット、デメリットについて</li> <li>質問4 開校するまでの準備はどのようなものだったのか</li> <li>質問5 小中一貫教育のメリットをどのように活かしているのか</li> <li>質問6 教育課程の編成上の工夫</li> <li>質問7 小学生と中学生の関わりはどのように行っている</li> </ul> </li> </ul>
---------------------	---

	<p>のか</p> <p>質問 8 小中一貫教育によって、かえって困難になったことはないか</p> <p>質問 9 小中一貫教育での学習面での特徴と成果</p> <p>質問 10 幼稚園、保育園との連携はどのようにされているか</p> <p>質問 11 生徒の通学状態</p> <p>質問 12 校区外からの児童生徒数</p> <p>質問 13 保護者、地域の方々との連携</p> <p>質問 14 校長として、教員として一番意識して取り組んでいることは</p> <p>質問 15 湖南学園となって児童生徒、保護者、教職員の方々は以前と比べてどのように変わったと感じているか、アンケートなどの結果があれば</p> <p>質問 16 教職員の研修について</p> <p>質問 17 コミュニティ・スクールについて</p> <p>実際の授業計画、湖南学園の生活時間表などの資料を添付している。</p>
<p>会 長</p> <p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視察に参加された方の感想など述べていただきたい。</li> <li>・小中の先生方の交流授業がなかったが、今後どうなるのか。地域の方が習字の授業をされているところしか見られなかったが、それだけだと何ら変わりがないように思う。</li> <li>・施設設備がどのようになっているのか、小中9年間がうまく調整できるのか。我々が目指す義務教育学校を考えていかななくてはならない。</li> </ul>
<p>委 員</p> <p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業風景を見る限り違和感はなく、小学生から中学生までひとつの校舎の中で一生懸命学び、完結している。中学校籍の教員が小学校の授業をもつと聞き、なるほどなと思った。対外的な活動については、まだ問題があるという話だった。</li> <li>・校内に温泉があり、まさに学校は地域の文化の拠点であり活性化となるものだと思う。</li> <li>・一体型と分離型のメリット、デメリットはどうかということが一番気になったが、施設一体型にメリットはあるがデメリットはほとんどないと言われたのが印象的だった。</li> <li>・職員数が充実しており、副校長、養護2名、事務2名など複数おり、小学校の先生が部活動もされ充実した教育活動が行えるのではないかと思う。</li> <li>・コミュニケーション力に重点を置き、コミュニケーション科</li> </ul>

委員	<p>をつくったり、英語教育に力を入れたり筋の通った取組みをされていて大変参考になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中の教員の関わりが重要。日野町でも中学校教員に兼務辞令をだして小学校の授業に参加しているが、少ない教員の中でそのような関わりが大事になってくる。</li> <li>・小学校の教員が中学校の部活動にでているのが新鮮だった。小学校教員にとっては負担かもしれないが、中学校にとっては複数で対応できて負担減となる。</li> <li>・人口、生徒数が減っていく中でどのような学校教育の在り方がよいのか考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を非常に意識されている学校運営をされている。地域も学校を大切な資源としていると思った。湖南学園の前身の小学校が統合でなくなることから、地域の方が立ち上がって学校を残そうという地域の声から始まった取組み、5年くらいの歳月をかけ検討し、地域が一緒になって学校のあり方を話し合っ、長い年月をかけて丁寧に話し合った結果、現在の湖南学園になったと聞いた。</li> <li>・全学年1～9年生 1～4年生、5～7年生、8～9年生のブロックとなっており、子どもの成長に合わせて区切られている。5年生で制服着用は成長の区切り。入学式、卒業式は1回。修学旅行は4年生。学校行事も成長に合わせて柔軟に計画されているのが義務教育学校の良いところ。</li> <li>・職員室も1フロアでコミュニケーションがとりやすい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～4年生が1階、8～9年生が2階、5～7年生が3階でフロアごとに分かれており、雰囲気も違うが先生が9年間を通して子どもたちの成長をみれるのはすごいと思う。</li> <li>・5年生からの制服着用については、ぐんぐん大きくなる時期なのでサイズが合わなくなると思われる。</li> <li>・中学生となった自覚、最高学年の役割意識が育みにくいという話だった。1つ上のブロックに上がる時に、どのように切替えているかもっと聞いてみたかった。</li> <li>・現在は教員が多く良い体制だが、学校の規模が小さいので将来的には減るかもしれないということだった。教員の多忙感は解消されると思うが、いずれ加配がなくなる。</li> <li>・小学校と中学校の気質の違いをどう解消していくか勉強していかななくてはならないと思った。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校の良い点は、先生方の相互乗り入れができること。以前英語の授業で中学校教員が小学校で教えているとこ</li> </ul>

副会長	<p>ろを見て、スムーズに取り組むことができると思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 湖南学園は一つの学校なので、小中学校の先生が分け隔てなく理解ができています。</li> <li>・ 義務教育を一つにした 1～9 年生の学校は、教科の連続性がある。小中学校の先生方が互いのことがよくわかるメリットがある。ただ、視察ではそれぞれの関わりという点が見られなかった。実技科目での関わり方を見たかった。</li> <li>・ プールの深さが小中で違うことは、一つの学校でのデメリットだが、他にはないということだった。しかし、理科、家庭科、音楽などで支障がでるのではないかと思う。一体型ではあるが部活動で前の中学校の施設も使用している。</li> <li>・ 地域の願い、活動を取り入れる総合的な学習などは、一連のストーリーが組みやすく連携しやすいのではないか。日野町は黒坂と根雨の行き来があり難しい点がある。</li> <li>・ ホタル保存会の方の活動を聞いて、地域貢献ができて良いと思った。</li> </ul>
会 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回 2 度目の視察だったが、前回行った時は英語の授業で専門の教員が小学校で教えていて、融通がきいて効果があると感じた。文科省の英語担当者も来ていて、もっと専門的に教えたらいという意見もあったが、外部とのつながりができて良いと思う。学校内だけでなく外部とのやり取りも比較的とりやすいと感じた。地域との結びつきも強い。</li> <li>・ 施設面では予算をかけないと解決しないのかなと感じた。</li> <li>・ 10 年で完成に近いようだが、これからが課題だということだった。</li> <li>・ 乗り入れの授業を見たかった。ブロックごとの最上級生が下級生をまとめる仕組みを入れていると感じた。職員室が一つであること、養護の先生が 2 人いて助け合うことができるのが良い。書道の授業で、先生とは別に地域の方が助手のような形で指導されており、給料も出ていてきちんとした制度に則って授業に出ていた。地域の方の力を借りることによって教育の中身に厚みが出てくる、深みが出てくる、落ちこぼれが無くなる。</li> <li>・ 中学校の理科の一部を 5 年生に教えるといった、9 年間のカリキュラムを少しずつ動かせることが良いと感じた。また、小中の壁を越えた一連の教育の内容がしやすい。これらは、義務教育学校、小中一貫校のメリット。</li> </ul>
課 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料 2 6 教育課程の編成で工夫されている点はどのような</li> </ul>

	<p>ことか</p> <p>(4)学校行事や特別活動の工夫</p> <p>入学式 1年生のみ</p> <p>卒業式 9年生のみ</p> <p>長い9年間にメリハリの必要 各ブロックで修了式</p> <p>運動会 1～9年・地域</p> <p>ブロックごとの行事(初等ハイキング・夏祭り・クリスマス会等)でブロックごとの一番上の学年がリーダーになって活躍できる場面を作っているという報告があった。</p> <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハード面の課題 トイレ、教室の扉など改良すべき点がまだまだあった。</li> <li>・保護者からも湖南学園は受け入れられている。他地域からの通学も多く、保護者にとっても魅力的に捉えられていると思う。</li> </ul> <p>会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校区外からの児童生徒は来年度 30 人予定、保護者からの評価が高いと思われる。校区外からの児童生徒が増えているのは、取組みが進んでいるということ。鳥取市の施策として行っていることだが、市町村をまたがるとそれぞれの町に教育委員会があり管轄が違うので、日野町にはそのままは当てはまらない。</li> </ul> <p>課長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互乗り入れの場面が見られなかったのは、普段の授業の視察をお願いし、特にこちらが授業を指定していなかったため。</li> </ul>
<p>7. 議 事</p> <p>会長</p> <p>課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(1) 日野中学校区の学校のあり方について</li> <li>・資料 3 2018 年～2024 年までの児童生徒数の推移</li> <li>・資料 4 日野町が作成した日野町人口ビジョンから抜粋 内閣府推計の年齢(5 歳階級)別人口 5 歳～14 歳 P13 以降 日野町の推計 P16 内閣府推計と日野町推計 1・2</li> <li>・資料 5 小中一貫した教育課程の編成・実施に関する事例 (文部科学省) 全国の事例をまとめたもの 県内 伯耆町立岸本中学校区、福部未来学園</li> <li>・資料 6 小中一貫校における一般的な効果と課題 学校の教育目標、生徒指導、学習指導、教職員 期待される効果、課題、課題への対応</li> <li>・資料 7 小中一貫教育の成果と課題に関する調査研究 (国立教育政策研究所) ・ほとんどの取組は、人の移動交流や連絡調整が比</li> </ul>

較的容易な施設一体型・隣接型の学校でなされやすく、これらが困難となりやすい一対多の施設分離型の学校でなされにくいという傾向が見られた。取組を実施した学校では小中一貫教育の成果を比較的感じやすくなる傾向あり。

- ・小中一貫教育による成果を得るためには、ねらいを明確にして、必要な手順を着実に踏むことが不可欠。

- ・小中一貫したカリキュラム、教科担任制、乗り入れ授業などの取組をすると成果が得られる。

- ・施設一体型と施設隣接型の小中一貫校、施設分離型小中一貫校 一対一 一対多

- ・資料 8 義務教育学校等の施設計画の推進に関する調査研究 アンケート調査・分析結果のまとめ 総括

- ・小中一貫教育を進める施設形態としては一体型が有効である。それ以外の施設形態においても、改修等の工夫によって、施設的な効果を高めることが可能。

- ・全体として隣接型・分離型よりも一体型の方が小中一貫教育のために様々な運営面・施設面の工夫を行っているという傾向が明らかとなったが、質問項目によってはその全体的な傾向によらない特徴が見られるものもあった。

- ・資料 9 公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律

- ・学級編制の標準

二の学年の児童で編制する学級

小学校 一学級の児童数 16 人

中学校 一学級の生徒数 8 人

黒坂、根雨小では基準により複式学級が編制されるが、県やその他の措置により実際は単式としているところがある。

- ・教職員の配置

第 6 条 2 小中一貫校は小、中にそれぞれ校長が 1 人ずつ

義務教育学校は校長 1 人

第 7 条 副校長以下の数 義務教育の前期課程は小学校、後期課程は中学校に準

	<p>じて配当される 義務教育学校となっても教職員数は減らない。</p> <p>第8条 養護教諭 第9条 事務職員</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 4 P13 日野町の設定方法 「2.07」人口を維持できる人口推計を用いた独自の推計</li> <li>・内閣府推計の年齢別人口は 2060 年までであるが、校区審議会としていつまでのことを考えたらよいか。</li> </ul>
課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的にどうなるかということを入れて学校教育のあり方を考えていただきたい。現状のままで良いか、義務教育学校等が良いか考えるのは早い方がよいと思う。人口は減少していくことを含めたくえで検討していただきたい。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もし、学校を変えたとしたら 4～5 年はかかる。校区審議会が結論を出してから最低 1～2 年は必要。日野町の希望的な推計がうまくいかなければ、内閣府の推計のように人口減少していく。確実な予測児童生徒数については資料 3 を参照。中学校は 2028 年は生徒数 38 人の予測となり、学級 10 人前後で中学校教育がうまく進められるか。</li> <li>・人数だけでなくむしろ今の時代に合った、これからの時代を切り開いていく教育内容をどうするか、そのために学校をどうしていくか考えていくことも必要。日本中が抱えている課題の最先端を行っている。</li> <li>・日野町の場合は学校を残して魅力ある学校とし、子どもたちの力をつけるべきだと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校は統合しないと今後の学校教育が成り立たないのではないかという投げかけをした。保小中一貫教育に取り組んできたので、小中一貫校または義務教育学校という方向に行くのがベストではないか。将来的に中学校区の統合となった場合、日南町、江府町に後れをとらないよう取り組んでいくことが、教育体制の充実に結びつく。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校は中学校教員が小学校で教える利点があるが、中学校教員の負担が増えるのではないかと心配。地理的条件を考えると分離型は難しい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校なりの学校運営を現在行っている、このまま実施すれば手厚い教育を行っているといえる。管理面で、PTA にお願しているところもあるが、小規模校だと PTA 数が減り管理が難しくなる。できれば新たな学校を作ることをこの機に</li> </ul>

	<p>進め、適正な管理ができる学校環境を進めたほうが良いと思う。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の子どもは2020年入学するが、推計だと複式学級となり、統合すると複式学級にならないということになる。複式学級のメリット、デメリットはなにがあるのか。他の学級と授業すること、単学級ですることの違いとは何があるのか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 保育所アンケート結果で黒坂は絶対反対ということではなかったので訂正をお願いしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の子どもが卒業すればあまり関係ないと思っていたが、いろいろ聞いて他人事ではいけないと思い、勉強していきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在日野町は保小中一貫教育を続け、中学校教員が小学校で授業もしているので一貫校のような状況である。今後子どもの数が減少していく中で、義務教育学校が魅力があり、保育所も同じ施設内にあって子どもたちを育て日野町に残っていくようになる教育システムとなれば良い。</li> <li>・わが子も日野高校に進学し、日野町に残って町のために何かしたいと言っている。子どもが地域を思ってくれて残ってくれるような教育ができればよい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5～6年先の予測児童数をみると、統合するのか、義務教育学校なのか。未来が資料にあるどの事例に当てはまるのかピンと来ていないので、慎重な気持ちである。</li> <li>・複式学級について良い部分、良くない部分を耳にするので、果たしてどうなのかという感じ。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会を開き保護者の意見を聞くことができた。様々な意見があるが、慎重派が多い印象。</li> <li>・施設一体型の義務教育学校で教職員の一体感を得られることがメリットであるとはどういうことか。コミュニケーションの授業により、人間関係の作り方が鍛えられるのではと思った。一体感が施設一体型からなのか、行動からなのかが知りたい。行動からくる結果なら、小中学校それぞれで育まれる。</li> <li>・将来的に社会に出た時に、一貫教育のメリットが役に立つか考えたときに慎重になる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校生徒数は5年後には半減、部活動を来年以降見直すは何年もつか不安。生徒会活動が維持できなくなるのではないか。学校行事、班活動学習などの教育活動について今後大きく考えていかななくてはならない。</li> <li>・郡内、県内どこも同じ状況になっていくが、日野町が先進的</li> </ul>

委員	<p>な学校教育の取組みをしていくようになってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫と地域連携ははずせない。日野町として現在の制度の中では一体型の義務教育学校がベターだと思う。その中で子どもたちに切磋琢磨させたい。コミュニティ・スクールも始まり地域との連携もさらに必要になる。</li> <li>・小学校は地域の文化の拠点でもあり、総合的に考えて判断しなくてはならない。</li> <li>・未来の保護者となる保育所保護者の意見を尊重したい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒坂小 3年(4名)と4年(3名)が複式学級。複式学級だからデメリットがあるとは実際は思わない。以前の複式学級の授業は、わたり方式をとっていたが、現在は教科担当がいるので一つの学年だけで授業を行っている。ただし、学習の仕方は教員配置に左右される。課題は2年と3年の複式学級となったときで、2年間の学習の進め方が難しくなる。</li> <li>・将来的なことを考えると日野町としてはある程度の規模の学校、義務教育学校または小中一貫校が望ましいのではないかと思う。</li> <li>・現在は黒坂、根雨の地域に学校があり大きな意味がある。</li> <li>・来年度からコミュニティ・スクールが導入され、地域とのつながりを考えた上で緩やかに移行した方がよい。江府町に14年間勤め、4つの小学校が時間をかけ1つに統合する状況を経験してきた。統合してから10年間が経ったがどのように次のステップにいくかが江府町の課題。ある程度時間をかけないと歪みがでるのではないか。湖南学園も10年間をかけて小中一貫から義務教育学校に移行している。時間を十分かけて皆が納得した形で進めていくべき。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模学校となり、子どもを取り巻く環境はほとんど少人数で生活している。子どもひとりの思考の領域はどこまで広がるのか、社会に出た時多くの人との関わりを持つ力が育っていくのか。自分の考えがすべて正しいという独善的な人間が生まれはしないか。考えの違う人、多くの人との関わりの中で子どもは成長していく。ある程度の人数の一体型の義務教育学校の中で子どもは成長していくのではないかと思う。</li> <li>・小中連携の良さを活かし、低学年では一人ひとりを鍛えていく教育、中学年は他者と関わり比較しながら思考を深めていく、中学になれば将来を見据え自分の考えを確立していく形で義務教育学校を構築し学校のあり方を考えていきたい。</li> </ul>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、地域、先生のそれぞれの立場で意見を言っていた</li> </ul>

<p>会長</p>	<p>いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は小学校4年生まで複式学級、1人で学習した。地域の学校が無くなった保護者としての立場、日野町2校で勤めそれぞれの良さを引き出してきた教員としての立場があるが、子どもの時の複式学級で学んだ立場から言うと、大勢の中に出た時に自分の思いが出せなかったという気持ちはなかった。地域から学校が無くなったことで、学校には地域文化を伝えていく役割があったのかなという思いもある。黒坂、根雨小に勤め地域の人々と地域の良さを取り入れながら存続させていったという思いもある。一貫校、義務教育学校を見ていくと小中の流れの良さもあり、どこを取ればよいか迷う。</li> <li>・子どもたちの目線で考えていき、ひとつの方向を出したい。</li> <li>・一体感について、1～9年生まで縦の交流ができること、先生方の乗り入れができることが日常的にある。職員室もひとつなので小中の先生の交流もできる。ひとつの学校の中で、教職員も子どもたちも日常的に交流できるのが一体感につながる。</li> </ul>
<p>課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保小中一貫校について、福部未来学園は保育園の年長も入れた10年生で、施設一体型の学校。日野町も保育所と小中一体型の学校を考えることも可能。そうすると日野町独自の教育となり、保護者からも期待されると思われるが、現状どうするかということになる。</li> <li>・コミュニケーション科について、義務教育学校は独自に教科を設定することができる。その学校の課題にあったコミュニケーション能力を育成するというで教科を設定。日本語、英語を使うコミュニケーション、人と関わっていく力を伸ばすために教科を設定し取り組んでいる。週1～2時間、年間90時間。その分総合的な学習時間は少なくはなるが、そういうことができるのは特色のある学校であるといえる。</li> </ul>
<p>会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その地域の特徴、その地域だからできることを考えることは、子どもたちにとって魅力的であり、ここで暮らしたいと考えることもある。日野町は「たたら」について小さな実験室としてもできるし、地理学、人間の歴史を学ばせることも特徴的な科目として設定することもできる。「おしどり」など季節ごとの日野町の特徴、良さを学ぶこともひとつの教科として取り上げられ、子どもたちがふるさとを大事にする、いいところだと小さい頃から感じることができる。</li> <li>・子どもたちに多くの職員、地域の方々と交流を持たせること</li> </ul>

	<p>が大事、小さい集団になればなるほど、大きい集団とコミュニケーションをとる必要があるので、地域の方に活躍していただける場となる。</p>
課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回の審議会までに準備するものがあれば示してほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート調査結果はどうか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 黒坂小は実施したが、(統計的なものとしては) 示しにくい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 根雨小もアンケート実施はしたいが、質問内容などどのようにしたら比較しやすいか検討したい。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統一した内容のものが良いが、アンケートをとる前にある程度日野町の現状と将来についての事実関係を知っておいてから実施したほうが良いのではないか。</li> <li>・ 懇談会をもったり、学校のあり方など情報を集めて地域と話し合いをしたりしたらどうか。すぐにアンケートをとるのは難しいと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 以前にアンケートした結果、統合は反対だが、新しい学校をつくるのであれば検討したいということだった。</li> <li>・ 義務教育学校はどういうものか、児童生徒数の推計数値も含めて周知する方法があれば、その内容を理解したうえでアンケートをとることもできる。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 義務教育学校などについて簡単にわかる資料を作成し、知ってもらえることができればよい。そのうえでアンケートについて検討する。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PTA はよいが地域の方との話し合いまでは必要ないのではないか。子どもたちや保護者の意見が大事。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひのっこ保育所を卒園した中学生の意見を知りたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所から小学校が別れるのが寂しいという意見があったので、子どもたちの意見を聴くことはよいと思う。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい学校とはどういうものがあるか資料を作成し説明できたらよい。PTA、学校に対して説明してほしい。先生方の意識改革にもなると思う。</li> </ul>
課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局で資料作成し、説明機会として4月のPTA 総会の折に時間をいただきたい。事務局が説明した後に詳しく話していただけたらと思う。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局で資料をまとめ、PTA 総会で説明、質疑応答、その後はPTA ごとに進めていただき、必要ならアンケートをとる。先生も総会に参加しているので同時に説明が聞ける。</li> </ul>
課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回審議会は6月上旬予定</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい学校など県内の動向についての資料があれば次回まで</li> </ul>

会 長	に用意してほしい。 ・特に日野郡の状況は分かった方がよい。一覧表形式で分かりやすいものができればお願いしたい。 ・次回審議会はPTA 総会での説明が終わり、PTA で討議をしていただいた後に開催したいと思う。
-----	--

平成 31 年 2 月 14 日

日野町校区審議会